刈谷市「元刈谷東地区」の歴史探訪

１０月３０日「元刈谷元気なまちづくり実行委員会」が主催の，元刈谷の東地区を歩いて回る歴史探訪に参加しました。以前にも教育委員会が主催する元刈谷を巡る企画に参加したことがありますが、本刈谷神社や五つのお寺を回るコースでした。今回は知人から案内をいただき、ガイドの仲間と二人で参加しました。

６３名が参加した地元の歴史探訪

知人からは駐車場についても地図をつけた案内をもらいましたので助かりました、大通り沿いの研信会中央クリニックの駐車場はわかり易く大きな駐車場でした。そこから歩いて直の五軒屋公園に着いたのは８時３０分の１分前で、集合時間に間一髪間に合ったという感じでした。

受付を済ませて知人が担当するという２班の列に並びました、最初に実行委員会の会長挨拶、次にガイドボランティアの都築さんが挨拶。都築さんは昨年まで私たちと東浦ふるさとガイドで一緒に活動してくれた方で、懐かしいお顔を見ることができました。

あとでわかりましたが参加者は６３名、ガイド１０名、スタッフ４名で総勢７７名だったとのこと。４班に分けて回る順番を変えて、４班がダブらないように工夫してありました。そのためこれだけの参加者がいるのに、一カ所でがち会うこともなくスムースに回ることができ、とても goo でした。それと、ひとつ気がついたのが参加者は女性ばかりというのではなく、男性も多くて半々にちかいといった感じが特徴でした。

名前は温泉でも銭湯だった「上天温泉」

はじめに向かったのは市駅近くの「上天温泉」、はて刈谷に温泉などあったかと思いました。刈谷市駅の横をすぎて直のところでガイドの内田さんが立ち止まりました。そこにはモルタル仕上げと思われる半円を描くような作りの、洋風で一部に二階部分がある建物が目を引きました。それは、昭和２年から平成１１年まで営業していた元刈谷唯一の銭湯でした。それを聞いて名前のことも納得できました。説明によると昭和初期の鉄筋コンクリート造りで、純農村

であった元刈谷にできた近代的な建物でした。設計者は大中肇といい彼の代表的な建築物としては、現在の刈谷市郷土博物館となっている「旧亀城小学校の本館」があります。この「旧亀城小学校の本館」は国の登録文化財に指定されています。

当時、元刈谷の農家におけるお風呂は「五右衛門風呂」が普通だったと言います。そんな時代に出現した銭湯は内部の見学はできませんでしたが、タイル張りの立派なものだったといいます。そこには富士山の絵が描かれていたのでしょうか。きっと利用した人たちは大きくて広い湯船に浸かり富士山を眺め，一日の疲れを癒やしたことでしょう。

高架になった刈谷市駅と駅前通り

上天温泉からほんの少し戻ると名鉄の刈谷市駅で、現在は高架の駅になっています。工事中のようで高架の下は柵で囲んでありました。昔のように駅舎らしい建物はなくて，「名鉄刈谷市駅」の看板は高架になっている線路の側壁に張付けてあります。これが近代的なのかもしれませんが、なんとも風情のない姿であり寂しくもあります。こんな風に思うのも年をとったと言うことでしょうか。そんな市駅前の通りは昔と一変していました、駅前の映画館「日劇」には時々来ていました。当時は記録映画でフランスのジャン・クォストー監督「沈黙の世界」や「青い大陸」を見たことを今も覚えています。それにいつだったかは、同級生の女の子とソフィアローレン主演の「ローマの女」(二人の女だったかな?)を見に来たことは、なぜか今も覚えており日劇は若かった頃の思い出と重なり合っています。それに通りの本屋さん「明文堂」には時々通ったことが懐かしく思い出されます。そんなことを思い出すにつけ、昔とのギャップになんとなく違和感を覚え、寂しくもありました。この駅は大正３年(1914)に開業した三河鉄道の駅で，当初は「刈谷町駅」として出発し昭和２５年の市制施行により、昭和２７年より「刈谷市駅」になりました。ホームへ上がるには、ひとつだけ設置された自動改札機をぬけて階段を上がります。でも、この場所は元刈谷ではないそうです。

市駅前の通り

刈谷高校といえばサッカー

名鉄三河線を越えて広い通りを少し行くと左側に校門が現れます、ここが刈谷高校です。大正８年(1919)に県下８番目の旧制中学校(５年制)として開校しました。校訓「質実剛健」のもと，県下屈指の伝統校として多くの人材を輩出しています。私たちの中学時代には刈谷高校へ入学できる生徒が、成績優秀と認められておりました。しかし、学業だけでなく運動も盛んでサッカーは特に「赤ダスキの刈高」として、全国にその名を轟かせていました。昭和 29・30 年国体では連続優勝しています。ただ最近はそれほど目立ってはいないようでちょっとばかり寂しいです。少し古くなった感じの校門の奥に４階建ての

校舎がたたずんでいました。

秘仏を拝観した「崇福寺」

次に向かったのはスギ薬局の前を通り、愛知トヨタの横を抜けて崇福寺に到着。それほど大きくはない本堂と境内には大きな松の木が数本見える。このあたりは高松町の一角で、ひっそりと建つ浄土宗西山深草派のお寺さん。昔、上重原に山岡山蔵福寺という寺があり、荒れ果てていたのを江戸時代になって、刈谷の大岡栄純がこの地に諸堂を再建し、後に寺号を大岡山崇福寺と改めたという。

ご本尊の阿弥陀如来立像は一木造りの漆箔像で高さ 97cm、愛知県指定の文化財になっています。衣のひだに波のおどりあがる様子を表現しており、これは京都の神護寺にある薬師如来像と同じで、力強さが見られ、それに豊かな顔立ちも特徴と言います。材は伽羅香木が使われています。寺伝によると、承和 7 年(840)ころ唐から伝来したもので、京都入江御所知恩寺にまつられていたものを、大岡栄純が亨保 4 年(1719)に譲り受け、再建した寺に安置し 3 年後に寺号を改めた。本尊を京都から運ぶ時に使用した、荷札が今も保存されているといいます。

でもこのご本尊ふだんは見ることができません、今回は特別に拝観することができました。ふだんは拝観できないので、ご本尊の前に阿弥陀如来座像(左の写真)が安置されており、お参りをするようになっています。

しかし仏像の調査をした大学の先生によると、阿弥陀如来座像も素晴らしいものでなぜ県の指定が受けられないのか不思議だ、と言っていたそうです。

左の写真は涅槃図です、東浦の乾坤院でもお涅槃の時に掲げられるものですが、亡くなって横たわるお釈迦様の周りに、お釈迦様の一生が描かれていません。したがって少し小さめですが、立派なものでいつもここに掲げられているのかな。

もう一つ拝見したのは、お寺の崇福寺と書かれた木札に菊の紋章がついていました、その経緯についてもガイドの山田さんが丁寧に説明してくださいました。でもメモがとれず忘れてしまいました、残念。このあと裏手に回り大岡栄純のお墓を見てつぎへ移動しました。

刈谷豊田総合病院の生い立ち

崇福寺を出て川沿いの道を少し進むと刈谷豊田総合病院に着きました。今は東浦からコミニュティー

バスの「うらら」が乗り入れており、利用する人はとても便利になりました。この病院が昔は三井住友中央銀行の場所にあったことは知っていますが、どのような経緯で総合病院になったのかは知りません。説明といただいた資料によれば、元々は古井亮次郎が昭和１０年に開業した古井外科病医院が始まりです。病院の評判はよかったのですが、まもなく戦争が始まり経営困難に陥りました。その際、豊田自動織機重役の石田退三の力添えで、昭和１８年豊田病院として再出発しました。

古井は刈谷に総合病院を作るという願望を持っていましたが、昭和３８年(1963)に刈谷市と医療法人豊田会の協力で、ついに「刈谷豊田病院」として開院しました。初代院長は古井亮次郎でした。その古井亮次郎も昭和５８年に９２歳でなくなりました。現在では「刈谷豊田総合病院」の名は近隣の市町で知らない人はおらず、三河と知多北部の拠点病院と位置づけられています。説明を聞いているときにちょうど東浦からのコミニティバス「うらら」が到着しました。

五軒屋秋葉神社と前新田

刈谷豊田総合病院をあとにして堤防下の川沿いの道を歩き、スタート地点へ戻ります。田んぼ脇の農道は簡易舗装がされていますが、川側の 1m ほどは舗装がしてありません。知人が説明してくれたのは「舗装してない所の下は明治用水の配管が通っている」とのこと。配管に何かあったときに、早く対処できるためにあえて舗装してないのだと言います。明治用水と言えば刈谷駅前から知立へいく道沿いに用水が流れており、昔は蓋もなく水の流れが見えていました。でもここで交通事故があったときに、車が水没して死亡事故になったことがありました。そんなことが影響したと思いますが、あちこちの水路の多くは地下に潜り見えなくなりました。

このあたりは田町・中島町で一面に田園風景が広がっています。江戸時代に諸藩は経済力向上のため、新田開発に努めましたが、ここの新田は松平定政が刈谷藩主の頃の高須新田。刈谷最初の大規模な新田開発でした。新田開発には多額の費用と労力がかかり、風水害、塩害、病虫害など野ため、再び荒れ地に戻るとこもあって維持管理は大変でした。江戸時代後半に財力のある大商人が荒れ地を再開発しました。

その先で川を渡ると五軒屋公園に戻り、隣にある秋葉神社の説明を受けました。この辺りは昔、五軒の漁師家しかなかったことから「五軒屋」の名前がついたと言います。つまりは海の近くであったわけです。江戸時代中頃の創建と言われ、祭神は秋葉神社並びに可睡斎の火を司る神です。江戸時代に秋葉信仰が盛んになり、旅費など経済的負担を軽減するため、代参講が多くありました。現在も元刈谷には２・３の秋葉講があると言います。

２時間ほどの散策はとても有意義なものでした、ありがとうございました。